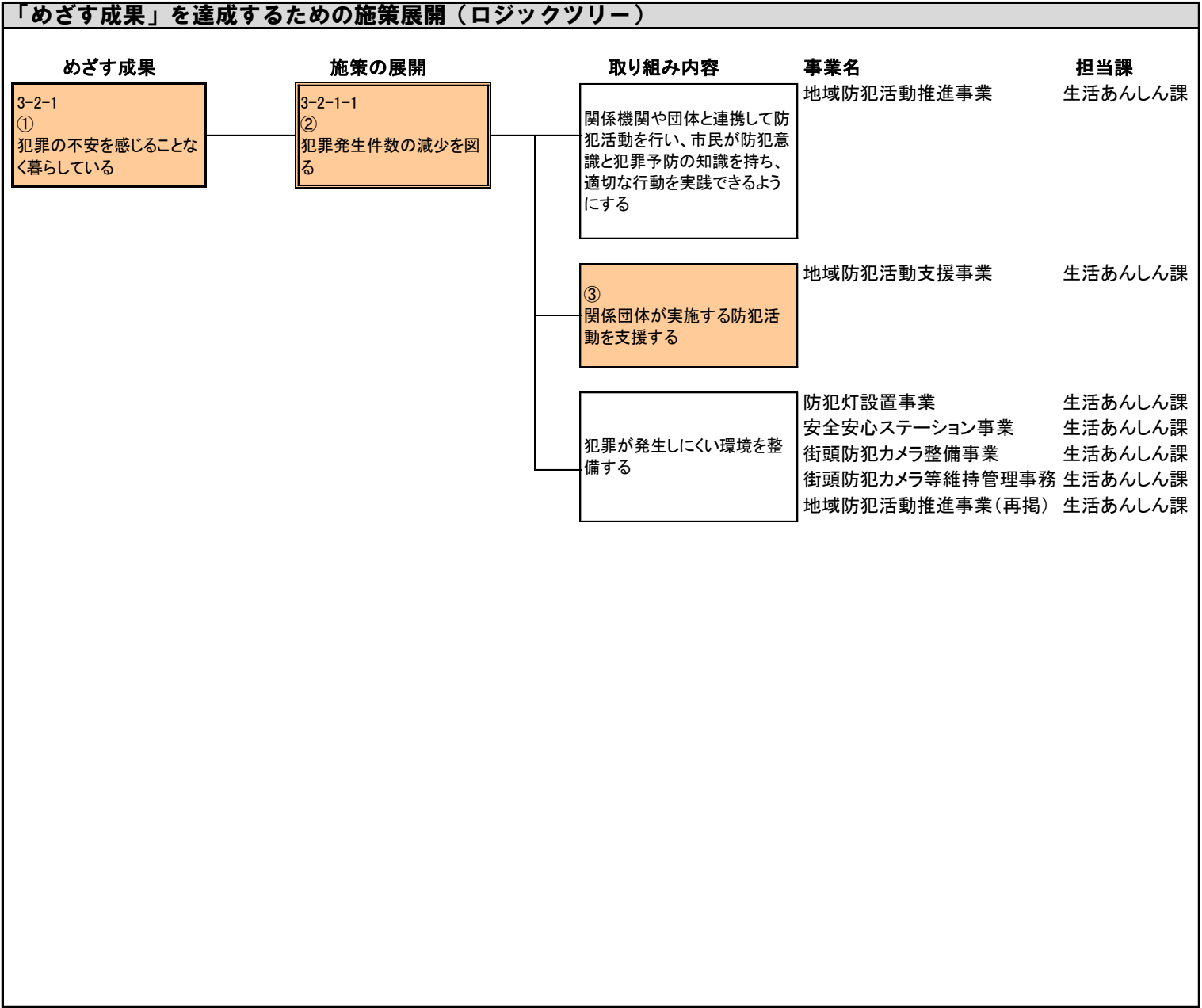


平成27年度「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート		
3-2-1 犯罪の不安を感じることなく暮らしている		
総合計画体系	健康領域・基本目標	まちの健康・安全と安心が感じられるまち
	個別目標	生活の安全性を高める
	めざす成果	犯罪の不安を感じることなく暮らしている 市民の防犯意識が高まり、地域での防犯活動が定着するとともに、犯罪にあうことが少なくなっています。



成果を計る主な指標	指標の名称	前期基本計画			後期基本計画		
		計画策定時 (H20)	最終目標値 (H25)	実績値 (H25)	実績値 (H26)	中間目標値 (H28)	最終目標値 (H30)
	① 以前に比べて、大和市の治安は良くなったと思う市民の割合	34.8%	50.0%	52.9%		48.8%	50.0%
	② 年間犯罪発生件数	4,040件	3,500件	2,482件	2,317件	2,230件	2,100件
	③ 自主防犯活動団体数			188団体	188団体	212団体	228団体

所 管 部	市民経済部
平成26年度の取り組み内容	【犯罪発生件数の減少を図る】 - 市民の自主防犯意識を高めるため、警察署や防犯協会等市内防犯活動団体と連携し、各種防犯教室や防犯キャンペーンなど犯罪の傾向に合わせた啓発活動を実施しました。また、安全安心ステーションの運営など、さまざまな防犯対策を講じたことにより、市内の犯罪認知件数は2,317件となり、6年連続で減少しました。 「客引き行為、つきまとい行為等の防止に関する条例」に基づき、大和駅周辺における、つきまとい、スカウト行為に対し、安全安心指導員が指導を行いました（16：30～23：00 244日間）。 - 青パト活動経費や青パト車両購入費、物品購入費の補助金を自主防犯活動団体等12団体（15件）に支出し、防犯活動を支援しました。 - 犯罪発生を抑止及び市民の体感治安の向上を図るため、街頭防犯カメラを中央森林地帯の道路沿いや子どもが利用する機会の多い場所を中心に285台（104箇所）増設し、既存のカメラと合わせて404台（162箇所）となりました。 - 自治会から約1万灯の防犯灯の移管を受け、蛍光灯タイプの防犯灯から全灯LED防犯灯に交換工事を行ったことで、省電力化と効果的な維持管理が可能となりました。
構成事業に対する考え方（事業の量及び実施手法）	- 警察・関係団体などと連携したパトロール・キャンペーン・防犯教室などの啓発活動に加え、青パト、街頭防犯カメラ、安全安心ステーションの見守り活動などの防犯施策を多角的・継続的に講じたことが、犯罪認知件数の減少につながったと考えられます。そうした中、振り込め詐欺については、34件（前年比2件増）と微増していることから、今後も巧妙化する犯行の手口などを注視し、効果的な対策を講じる必要があります。 - 犯罪の発生を抑止するためには、警察署、行政、市民（地域）が三位一体となって継続的に防犯活動に取り組むことが必要であり、これからも地域の自主防犯活動団体等への支援を行います。 - 街頭防犯カメラは、カメラ台数、設置箇所数ともに県内でトップの数字となっています。犯罪抑止策としての有用性が確認されていることから、引き続き、防犯上有効と考えられる場所に設置を進めます。 - 住民が夜間安心して街を歩けるように、自治会と連携し防犯灯の効果的な整備を進めます。

今後の展開方針		注）例年どおりの事業展開を予定している事務事業については、特段の記載をしていません。
新規事業の立案		（該当する事務事業）
既存事業の拡充		（該当する事務事業）
事業の廃止・縮減		（該当する事務事業）
事業の効率化		（該当する事務事業）
その他見直し		（該当する事務事業）